

# 2017年度（2018年3月期） 通期 決算説明会

2018年 4月 27日  
セイコーエプソン株式会社

## ■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。

なお、業績等に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

## ■ 事業利益について

事業利益は、売上収益から売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しております。

連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しております。

## ■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を切り捨て      比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入

年号：断りが無い限り、会計年度を示す

- 2017年度 通期決算
- 2018年度 通期業績予想
  
- 2017年度 第4四半期決算詳細
- 主要経営指標
- 株主還元

## 2017年度 通期実績 | ハイライト

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

	2016年度		2017年度		増減額				
	(億円)	実績	%	1/31予想	%	実績	%	前期比	1/31 予想比
売上収益		10,248		11,100		11,021		+772	-78
事業利益		658	6.4%	790	7.1%	747	6.8%	+89	-42
営業利益		678	6.6%	720	6.5%	650	5.9%	-28	-69
税引前利益		674	6.6%	720	6.5%	626	5.7%	-48	-93
当期利益		484	4.7%	510	4.6%	417	3.8%	-66	-92
EPS* (円)		136.82		144.79		118.78			
為替レート	USD	108.38		111.00		110.85			
	(円) EUR	118.79		129.00		129.66			

\*EPS: 基本的1株当たり当期利益

	前期に対する 為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他 通貨合計	合計
売上収益		+77	+155	+105	+338
事業利益		△23	+102	+47	+126

- はじめに、2017年度 通期決算についてご説明します。
- 売上収益は、前期に対し、772億円 増収の 1兆 1,021億円、事業利益は、89億円 増益の 747億円、当期利益は、66億円 減益の 417億円 となりました。
- 2017年度は、為替の円安により、売上収益で 338億円、事業利益で 126億円 のプラス影響を受けました。
- 営業利益以下の詳細については、第4四半期の実績とともに、後ほどご説明します。

# 2017年度 通期実績 | 事業セグメント別



- こちらは、事業セグメント別の売上収益と事業利益です。
- 以降のスライドで、セグメント別に実績のご説明をいたします。

## 2017年度 通期実績 | プリンティングソリューションズ

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

(億円)

プリンティングソリューションズ	2016年度 実績	2017年度 前回予想	2017年度 実績	前期比	前回予想比
売上収益	6,866	7,450	7,366	+500	-83
プリンター	4,812	5,330	5,231	+419	-98
構成比 IJP	81%	83%	83%	-	-
SIDM	9%	8%	8%	-	-
その他	10%	9%	9%	-	-
プロフェッショナルプリンティング	1,886	1,960	1,978	+91	+18
その他	184	180	173	-11	-6
事業間売上収益	-16	-20	-16	+0	+3
セグメント利益	841	1,000	948	+107	-51
セグメント利益率	12.3%	13.4%	12.9%		

IJP : Inkjet Printers  
SIDM : Serial Impact Dot Matrix Printers

5

- はじめに、プリンティングソリューションズの、事業別 通期業績です。
- 当セグメントは、増収・増益となりました。
- プリンター事業の売上収益は、  
インクジェットプリンターで、大容量インクタンクモデルが、  
豊富なラインアップと高いブランド認知度をベースに好調な販売が継続し、  
前期比 170万台の増加となる 780万台を達成したことに加え、  
円安の影響もあり、事業全体で大幅な増収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、  
大判プリンターで、サイネージ・テキスタイル・ラベル分野が拡大するとともに、  
円安の影響もあり、増収となりました。
- 以上により、セグメント全体で大幅な増収となりました。
- セグメント利益は、  
2017年度にワールドワイドでローンチした高速ラインインクジェット複合機などの、  
プロモーション活動や販売体制整備など、将来成長に向けた戦略的費用投下を  
計画どおりに進めた一方で、部品調達先の火災に起因した輸送費など、  
想定外の費用増加がありましたが、  
売上収益の増収に加え、円安の影響もあり、増益となりました。

## 2017年度 通期実績 | ビジュアルコミュニケーション ウェアラブル・産業プロダクツ

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2016年度 実績	2017年度 前回予想	2017年度 実績	前期比	前回予想比
売上収益	1,796	1,980	1,988	+192	+8
セグメント利益	161	240	244	+82	+4
セグメント利益率	9.0%	12.1%	12.3%		

(億円)

ウェアラブル・産業プロダクツ	2016年度 実績	2017年度 前回予想	2017年度 実績	前期比	前回予想比
売上収益	1,585	1,680	1,673	+87	-6
ウェアラブル機器	507	490	503	-4	+13
ロボティクスソリューションズ	169	250	246	+77	-3
マイクロデバイス他	965	1,000	989	+24	-10
事業間売上収益	-56	-60	-66	-10	-6
セグメント利益	78	80	71	-6	-8
セグメント利益率	4.9%	4.8%	4.3%		

6

- こちらは、ビジュアルコミュニケーションと、ウェアラブル・産業プロダクツの各事業の業績です。
- ビジュアルコミュニケーションの売上収益は、プロジェクターで、市場自体が伸び悩む中、継続してシェアの拡大を果たすとともに、収益性の高い高光束モデルの販売が拡大し、円安の効果もあり、増収となりました。
- セグメント利益も、増収に加え、高付加価値製品の増加による収益性の改善により、増益となりました。
- ウェアラブル・産業プロダクツの売上収益は、ウェアラブル機器は前年度並みとなったものの、ロボティクスソリューションズが、商品力の強化などにより、市場成長以上の販売拡大を果たし、増収となりました。また、マイクロデバイス他は、水晶が減少したものの、半導体が好調に推移し、増収となりました。以上の結果、セグメント全体で、円安の効果もあり、増収となりました。
- 一方、セグメント利益は、概ね前期並みとなりました。

**■ 第1期中期経営計画のコアとなる戦略製品の投入と事業基盤強化は進展、一方で取り組みのスピードに課題**

## &lt;進展&gt;

- 戦略製品の販売拡大継続と将来成長に向けた新製品の投入
  - ✓ 大容量インクタンクモデル、大判プリンターのサインージ・テキスタイル・ラベル分野、高光束プロジェクター、ロボット
  - ✓ 高速ラインインクジェット複合機投入、ライティングモデル開発完了、アナログウオッチでの新ブランド「TRUME」展開開始
- 生産・販売などの事業基盤強化
  - ✓ フィリピン新工場（プリンター、プロジェクター組立工程）稼働
  - ✓ 広丘事業所新工場（ヘッド前工程・開発拠点）建設
  - ✓ オフィスプリンターの販売体制強化
  - ✓ エマージング地域の販売体制強化（ベトナム販売会社設立など）

## &lt;課題&gt;

- マイクロピエゾテクノロジーの強みをお客様価値につなげる取り組み

- ここで、2017年度での、戦略の進展と課題を総括いたします。
- 私たちは、長期ビジョン「Epson 25」の実現に向け、「Epson 25 第1期 中期経営計画」に基づいた取り組みを進めていますが、2年目となる2017年度は、そのコアとなる戦略を、概ね順調に進展させることができたと考えています。
- 大容量インクタンクモデル、大判プリンターの成長分野、高光束プロジェクター、ロボットなどは、順調な拡大が継続しました。
- また、高速ラインインクジェット複合機のグローバルでの投入を完了するとともに、プロジェクターでは、スポットライトとしても活用できる、空間演出市場向けライティングモデルの開発が完了し、アナログウオッチでは、新ブランド「TRUME」の展開を開始するなど、将来成長に向けた新製品を投入しました。
- さらに、フィリピンや長野県の広丘事業所などの開発・生産拠点の拡充や、オフィスプリンターやエマージング地域での販売体制の強化など、事業基盤の強化も、計画に沿って進めることができました。
- 一方で、2017年度は、長期ビジョン実現に向けた取り組みに、スピード感に欠けた部分もありました。
- エプソンは、オフィスでの印刷をレーザーからインクジェットに置き換える取り組みを進めてきたなかで、お客様が本質的に求めているのは、環境負荷を抑えながら、コストを気にせず印刷したいということであると、改めて確信しました。これを実現できるのは、エプソンのマイクロピエゾ技術であり、大容量インクタンクモデルや、高速ラインインクジェット複合機なのです。この優位性を徹底的に訴求し、プリンターのビジネスモデル転換を加速しなければなりません。



2018年度 通期業績予想						EPSON EXCEED YOUR VISION
	2017年度		2018年度		増減額 前期比	
	(億円)	実績	%	予想		%
売上収益		11,021		10,500	-521	
事業利益		747	6.8%	800	7.6%	+52
営業利益		650	5.9%	750	7.1%	+99
税引前利益		626	5.7%	740	7.0%	+113
当期利益		417	3.8%	580	5.5%	+162
EPS* <sup>1</sup> (円)		118.78		164.67		
為替レート	USD	110.85		100.00		
	(円)	EUR	129.66	125.00		

	為替感応度* <sup>2</sup>	USD	EUR	その他 通貨合計
売上収益		△30	△15	△30
事業利益		+5	△10	△13

\*1 EPS：基本的1株当たり当期利益  
\*2 USD/EURは1円の円高による年間影響額（億円）  
その他通貨は1%の円高による年間影響額（億円）

- このような、2017年度の総括を踏まえた2018年度の業績予想は、ご覧のとおりです。
- 売上収益は、前期比 521億円 減収の、1兆 500億円、事業利益は、52億円 増益の、800億円、当期利益は、162億円 増益の、580億円を見込みます。
- 為替前提は、今後の変動リスクを勘案し、USDは 100円、ユーロは 125円としました。
- その他の通貨は、おおむねUSDと同様に足元の水準からはやや円高の前提で設定いたしました。

# 2018年度 通期業績予想 | 事業セグメント別

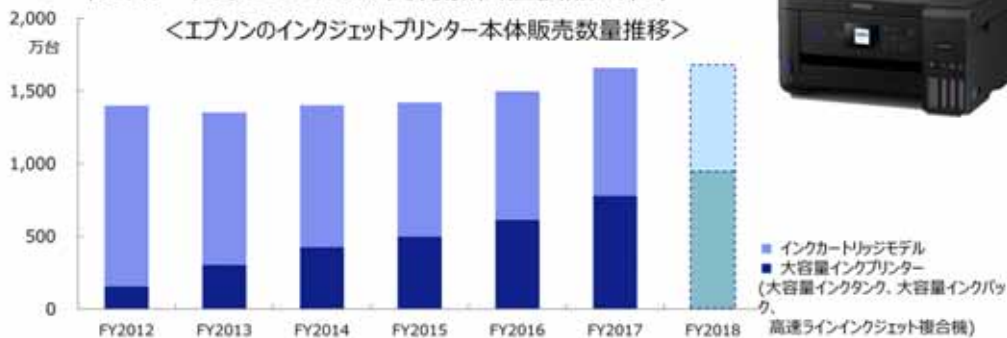


➤ こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別の内訳です。

## プリンター

## ■ プリンターのビジネスモデル変革を目指し、インクカートリッジモデルから大容量インクタンクモデルへの積極的な転換を図る

- 大容量インクタンクモデルは、
  - ✓ 環境負荷低減・低TCOというお客様価値の実現が可能
  - ✓ 一桁違う印刷コストが、新しいビジネス価値を創出
  - ✓ エマージング地域に加え、先進国においても展開を加速
- インクカートリッジモデルは、高付加価値製品に集中



- ここからは、各事業での取り組みとセグメント別予想の前提についてご説明します。
- はじめに、プリンター事業です。
- エプソンは、お客様価値の実現のため、プリンターのビジネスモデル変革を目指し、インクカートリッジモデルから、大容量インクタンクモデルへの、積極的な転換を図ります。
- 大容量インクタンクモデルは、レーザープリンターだけでなく、インクカートリッジモデルと比べても、環境負荷が低く、低TCOを実現できます。
- この2つのお客様価値は、グローバルでの環境意識の高まりや、高い印刷コストに対する、オフィスのお客様の困りごとの解決につながります。
- さらに、大容量のインクを搭載したプリンターが提供する、印刷コストが一桁違うという異次元の価値は、全く新しいビジネス価値を生み出す可能性があります。
- 例えば中国では、街中や空港、観光地、レストランなどに、53,000台以上設置されたプリントマシンで、スマートフォンで撮影した写真を、WeChatを介して、手軽に印刷できるサービスが提供されています。しかも、印刷代は設置者や広告主が負担するため、お客様は、無料または格安で写真が手に入ります。
- このマシンに、エプソンの6色カラー大容量インクタンクモデルが搭載されており、お客様に、コストを気にすることなく写真印刷を楽しんでいただくという、新しい価値を提供しているのです。
- このようにエプソンは、成長継続が見込まれるエマージング地域だけではなく、インクカートリッジモデルが主流となっている先進国においても、製品が提供する価値や優位性を訴求するとともに、新たな市場を創出するため、他社との協業を含めた取り組みも積極的に進め、大容量インクタンクモデルへの転換を加速させていきます。
- これにより、2018年度のエプソンの大容量インクタンクモデル販売数量は、インクジェットプリンター全体の約55%となる950万台、前期比で170万台の数量成長を計画しています。
- 一方、インクカートリッジモデルは、付加価値の高い製品に集中します。

## 2018年度 事業別の取り組み

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

### プリンター

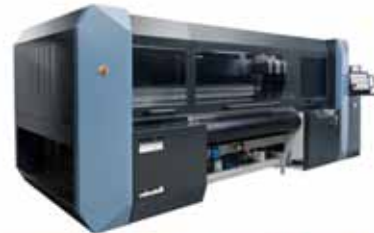
#### ■ 高速ラインインクジェット複合機ビジネスを軌道に乗せる

- FY2018は、蓄積した知見をベースに、販売拡大を加速
  - ✓ 各地域の状況に合わせたチャネルとの協働活動を強化
  - ✓ 印刷性能の高さに加え、環境負荷低減への貢献を訴求



### プロフェッショナルプリンティング

#### ■ インクジェットにより商業・産業印刷（サイネージ、テキスタイル、ラベル分野）のデジタル化を進展させ、成長を継続させる



11

- つづいて、高速ラインインクジェット複合機の進捗状況についてご説明します。
- 2017年度は、グローバル展開が完了し、販売・サポート体制の強化やチャネルとの関係構築が、計画に沿って概ね順調に進んでいます。
- その結果、商談は着実に積み上げることができました。
- しかしながら、想定以上に成約までの期間が必要であったことや、お客様の買い替えタイミングなどから、販売は計画に対し未達となりました。
- 2018年度は、販売・サポート体制を継続的に強化するとともに、これまでに得られた知見を生かし、各地域の状況に合わせたチャネルとの協働活動を本格的に推進してまいります。
- また、プロモーションについても、従来行ってきた印刷性能の高さに加えて、オフィスにおける環境負荷低減への貢献もアピールすることで、レーザーからインクジェットへの置き換えを進めてまいります。
- プロフェッショナルプリンティングは、2018年度も、インクジェット大判プリンターにより商業・産業印刷のサイネージ、テキスタイル、ラベル分野を中心にデジタル化を進展させ、成長を継続させます。

(億円)

プリンティングソリューションズ	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比
売上収益	7,366	7,000	-366
プリンター	5,231	5,000	-231
構成比 IJP	83%	84%	-
SIDM	8%	7%	-
その他	9%	9%	-
プロフェッショナルプリンティング	1,978	1,840	-138
その他	173	180	+6
事業間売上収益	-16	-20	-3
セグメント利益	948	1,000	+51
セグメント利益率	12.9%	14.3%	

12

- 以上を踏まえた、プリンティングソリューションズの各事業の売上収益と、セグメント利益の予想は、ご覧のとおりです。
- 売上収益は、主に家庭向けインクカートリッジモデルの市場稼働台数の減少により、インク売上の緩やかな減少を見込みますが、大容量インクタンクモデルへのシフトを進めるとともに、プロフェッショナルプリンティングの販売拡大を進めます。
- しかし、販売拡大を上回る為替のマイナス影響を受け、セグメント全体で減収の見通しです。
- セグメント利益は、オフィス向け販売の強化や、先進国での大容量インクタンクモデルの販売拡大に向けた費用の投入を行いますが、大容量インクタンクモデルにシフトすることで、収益構造の変革を進めるとともに、インクカートリッジモデル本体の生産数量減少に伴う増益効果や、2017年度に発生したベンダー火災対応に関わる費用がなくなることなどにより、為替のマイナス影響を受けながらも、増益を予想します。
- なお、プリンティングソリューションズのセグメント利益 1,000億円のうち、プリンター事業の構成比率は約6割と、前期の構成比率 約5割半ばからの増加を見込んでいます。

### ビジュアルコミュニケーション

- 既存市場でのシェア拡大と新規市場の開拓



### ウェアラブル・産業プロダクツ

- ウェアラブル機器 | モデルミックスの改善と事業オペレーションの効率化
- ロボティクスソリューションズ | 市場成長以上の販売拡大を継続
- マイクロデバイス他 | 顧客ニーズを捉えたラインアップ強化



- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場全体の成長は見込めないものの、商品ラインアップの強化などにより、既存市場でのさらなるシェア拡大を図るとともに、新たに空間演出市場の開拓に取り組みます。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、ウェアラブル機器において、モデルミックスの改善と事業オペレーションの効率化を図ります。
- ロボティクスソリューションズでは、ラインアップの強化などにより、市場成長以上の販売拡大を継続させるとともに、新たにヒト協調市場に参入します。
- マイクロデバイス他は、半導体での好調持続を見込み、水晶でスマートフォン向け小型デバイスなど、顧客ニーズを捉えたラインアップ強化を図ります。

## 2018年度 通期業績予想 | ビジュアルコミュニケーション ウェアラブル・産業プロダクツ

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比
売上収益	1,988	1,880	-108
セグメント利益	244	220	-24
セグメント利益率	12.3%	11.7%	

(億円)

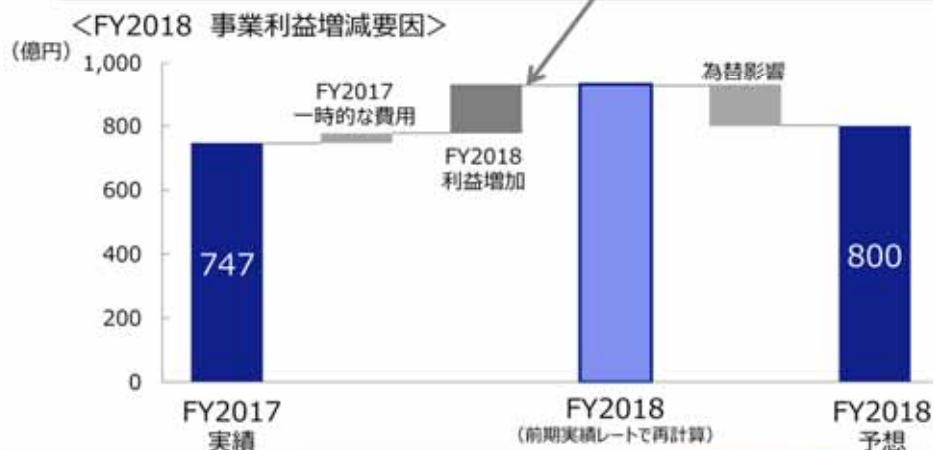
ウェアラブル・産業プロダクツ	2017年度 実績	2018年度 予想	前期比
売上収益	1,673	1,610	-63
ウェアラブル機器	503	460	-43
ロボティクスソリューションズ	246	260	+13
マイクロデバイス他	989	940	-49
事業間売上収益	-66	-50	+16
セグメント利益	71	90	+18
セグメント利益率	4.3%	5.6%	

14

- 以上を踏まえた業績予想は、ご覧のとおりです。
- ビジュアルコミュニケーションは、  
着実な販売増加を見込みますが、為替のマイナス影響により、減収を予想します。
- セグメント利益は、将来成長に向けた戦略的費用投入や、  
為替影響により減益の予想です。
- ウェアラブル・産業プロダクツは、  
為替のマイナス影響を受け減収となるものの、セグメント利益は増益の予想です。

- コア技術に立脚した、お客様価値を実現する製品の提供により、ビジネスモデルの変革を進め、確実に増益を実現する

- 戦略製品の販売拡大継続
- お客様価値を実現し、インクジェットプリンターのビジネスモデルを変革
- 将来成長のための研究開発投資や事業基盤強化は継続



- 2018年度は、成長に向けて事業の基盤固めを行う中期経営計画の最終年度となります。
- 「Epson 25 第1期中期経営計画」の取り組みを完遂させるとともに、前期の課題を踏まえ、コア技術に立脚した、お客様価値を実現する製品の提供により、ビジネスモデルの変革を進め、確実に増益を実現します。
- 2018年度の事業利益予想 800億円の、前期比増減要因をまとめると、ご覧の構造となります。
- 前期に発生した、約 30億円の一時的費用が今期は発生しないことに加え、各事業での取り組みの成果としての、利益増加を見込む一方で、為替のマイナス影響を約 130億円程度織り込みました。
- なお、この事業利益 800億円は、第1期中期経営計画の目標値に対しては、同計画の前提為替レートで再計算した場合でも、利益額および利益率ともに、若干未達となる水準です。
- 各事業の取り組みは確実に進捗しているものの、今まで知見の蓄積が不十分だった新たな領域の一部に、計画より遅れている部分もあります。
- しかし、エプソンが目指す戦略の方向性については、揺るぎない確信を持っています。
- したがって、将来成長に向けた設備投資や費用投入は、今まさに行うべきであり、今期も高い水準を継続します。
- もちろん、中期目標に対して未達の業績予想であることを十分認識し、少しでもこの予想を上回る成果を残せるよう、これまでに顕在化した課題に手を打ちつつ、長期ビジョン「Epson 25」実現に向けて、エプソンは、しっかりと歩みを進めてまいります。



- 2017年度 通期決算
- 2018年度 通期業績予想
  
- 2017年度 第4四半期決算詳細
- 主要経営指標
- 株主還元

## 2017年度 通期実績 | ハイライト

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

	2016年度		2017年度		増減額				
	(億円)	実績	1/31予想	%	実績	%	前期比	1/31 予想比	
売上収益		10,248	11,100		11,021		+772	-78	
事業利益		658	6.4%	790	7.1%	747	6.8%	+89	-42
営業利益		678	6.6%	720	6.5%	650	5.9%	-28	-69
税引前利益		674	6.6%	720	6.5%	626	5.7%	-48	-93
当期利益		484	4.7%	510	4.6%	417	3.8%	-66	-92
EPS* (円)		136.82	144.79		118.78				
為替レート	USD	108.38	111.00		110.85				
	(円)	EUR	118.79	129.00	129.66				

\*EPS: 基本的1株当たり当期利益

	前期に対する 為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他 通貨合計	合計
売上収益		+77	+155	+105	+338
事業利益		△23	+102	+47	+126

- 2017年度の営業利益、当期利益についてご説明します。
- 営業利益は、前期比および前回予想比ともに、その他の営業収益費用に、為替予約時とのレート差異による差損を計上したこと、また、2017年度 第4四半期に、海外拠点の再整備に伴う費用を計上したことなどにより、減益となりました。
- また、税引き前利益は、営業利益の減少に加え、2017年度の期末にドル安となったことで、現預金等の外貨建て資産・負債の換算替えによる為替差損を計上したため、減益となりました。
- 当期利益は、前期比で税金費用が、米国における税制改正の影響などにより増加し、減益となりました。

## 2017年度 第4四半期実績 | ハイライト

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

	2016年度		2017年度		前年同期比 増減額		
	(億円)	4Q実績	%	4Q実績		%	
売上収益		2,590		2,686	+96		
事業利益		117	4.5%	163	6.1%	+45	
営業利益		105	4.1%	127	4.8%	+21	
税引前利益		100	3.9%	116	4.3%	+15	
四半期利益		13	0.5%	70	2.6%	+57	
EPS* (円)		3.79		20.65			
為替レート	USD	113.64		108.39			
(円)	EUR	121.08		133.20			
* EPS: 基本的1株当たり当期利益							
		前年同期に対する 為替影響額 (億円)		USD	EUR	その他 通貨合計	合計
		売上収益		-38	+45	-19	-12
		事業利益		+8	+29	-17	+20

18

- 続いて、第4四半期の決算についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期比 96億円 増収の 2,686億円、事業利益は、45億円 増益の 163億円、四半期利益は、57億円 増益の 70億円 となりました。
- 当四半期の為替変動による影響額は売上収益で マイナス12億円、事業利益で プラス20億円となりました。

## 2017年度 第4四半期実績 | 事業セグメント別



➤ こちらは、売上収益、事業利益のセグメント別の内訳です。

## 2017年度 第4四半期実績 | プリンティングソリューションズ EPSON

プリンティングソリューションズ	2017年度		前年 同期比	(億円)
	2016年度 4Q実績	2017年度 4Q実績		
売上収益	1,756	1,829	+73	
プリンター	1,198	1,285	87	
構成比 IJP	81%	83%	-	• IJP: インカートリッジモデルは価格維持施策強化により前年同期並みの売上 大容量インクタンクモデル拡大 インクは安定的に推移
SIDM	8%	7%	-	• SIDM: 前年同期並み
その他	11%	10%	-	• 大判プリンター: サイネージ、テキスタイル、ラベル分野の順調な販売が継続
プロフェッショナルプリンティング	504	496	-7	• POSプリンター: 安定的な販売継続
その他	58	51	-7	
事業間売上収益	-5	-4	+1	
セグメント利益	184	237	+53	
セグメント利益率	10.5%	13.0%		

- プリンティングソリューションズの前年同期との比較は、ご覧のとおりです。
- 当セグメントは増収・増益となりました。
- プリンター事業の売上収益は、インカートリッジモデル本体で、欧米での競合他社のプロモーションが継続するなか、価格維持施策の強化やモデルミックスを高価格製品へシフトしたことで、前年同期並みの売上となりました。一方、大容量インクタンクモデルは、エマージング地域、先進国ともに好調な販売が継続し、大幅な増収となっています。また、インク売上は、インカートリッジモデルの本体稼働台数の減少の影響を受けながらも、大容量インクタンクモデル用のインクが増加していることで、全体では安定的に推移しています。以上の結果、事業全体では、増収となりました。
- プロフェッショナルプリンティングは、大判プリンターのフォト・グラフィックス分野で、競合他社の影響を受けましたが、サイネージ・テキスタイル・ラベル分野の販売が順調に拡大し、また、POSプリンターは、安定的な販売が継続したことで、事業全体では前年同期並みとなりました。
- セグメント利益は、当四半期におけるセグメント利益の約5割半ば程度を占めるプリンター事業において、大容量インクタンクモデルの増収効果や、インカートリッジモデル本体の生産台数の減少に伴う増益効果があったことに加え、プロフェッショナルプリンティングで、新規分野の売上拡大によるモデルミックス改善効果などがありました。
- 以上により、セグメント全体で増益となりました。

## スライドは 前ページと同様

- なお、1月31日に開示した前回予想に対しては、売上収益、セグメント利益とも未達となりました。
- 売上収益は、  
プロフェッショナルプリンティングで、POSプリンターの案件獲得などにより  
予想を上回ったものの、プリンター事業において、大容量インクタンクモデルが、  
2017年度に集中して発生すると見込んでいた、インドの税制改正に伴う特需が、  
2018年度以降にも平準化して発生する見込みとなったことや、  
特定地域向け製品の部品調達が第3四半期に引き続き難航したこと、  
また、競合のエンド・オブ・ライフ製品価格低下の影響を一時的に受けたこと  
などにより未達となり、セグメント全体で未達となりました。
- セグメント利益は、売上収益の未達により未達となりました。

(億円)			
ビジュアルコミュニケーション	2016年度 4Q実績	2017年度 4Q実績	前年 同期比
売上収益	460	480	+20
セグメント利益	42	60	+17
セグメント利益率	9.2%	12.6%	

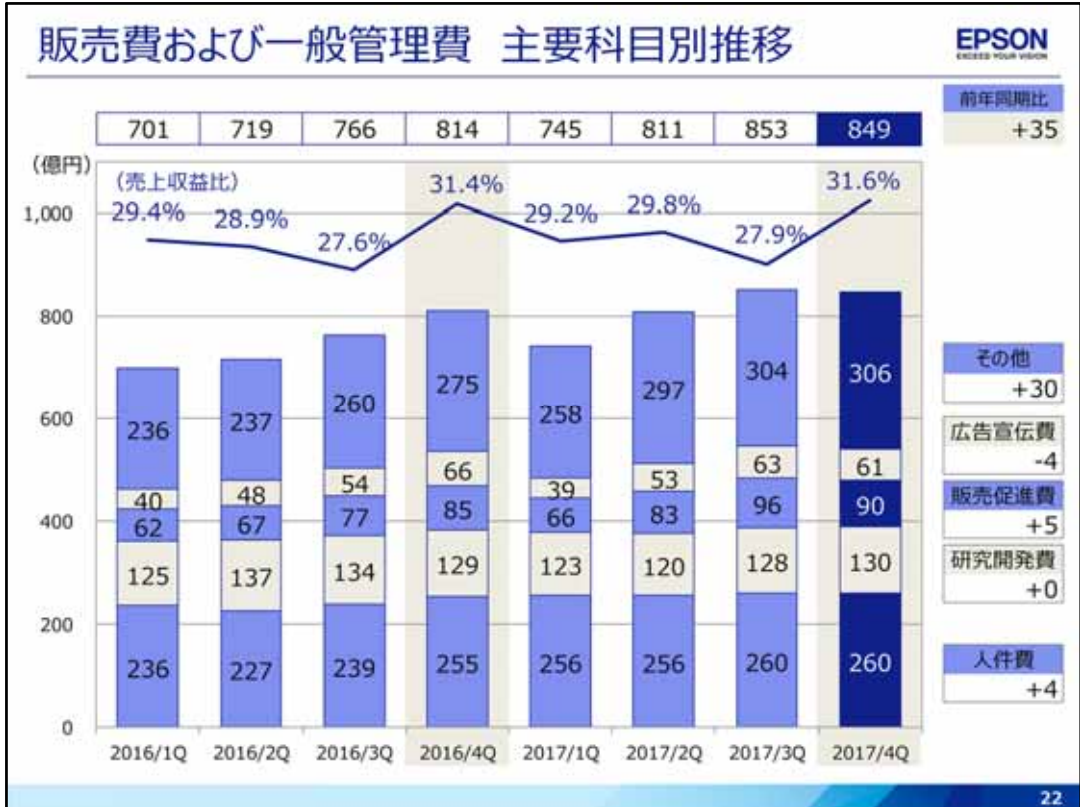
• プロジェクター：高光束、スタンダードモデルを中心に販売数量が増加

(億円)			
ウェアラブル・産業プロダクツ	2016年度 4Q実績	2017年度 4Q実績	前年 同期比
売上収益	377	386	+9
ウェアラブル機器	97	104	+7
ロボティクスソリューションズ	54	58	+3
マイクロデバイス他	238	240	+1
事業間売上収益	-13	-16	-3
セグメント利益	12	3	-8
セグメント利益率	3.4%	1.0%	

• ウォッチ・ムーブメント：堅調  
• ロボット：好調な販売が継続  
• 水晶：パーソナル機器向けで減少  
• 半導体：内需・外販・ファンドリーともに好調

- ビジュアルコミュニケーションは、プロジェクター市場全体が軟調に推移するなか、高光束モデルやスタンダードモデルの販売数量が欧州を中心に増加し、増収となりました。
- セグメント利益は、モデルミックスの改善やコストダウンが進展したことなどにより、増益となりました。
- 前回予想との比較では、概ね予想どおりでした。
  
- ウェアラブル・産業プロダクツの売上収益は、為替によるマイナスの影響を受けながらも、増収となりました。ウェアラブル機器は、国内向けウォッチやムーブメントが堅調に推移しました。ロボティクスソリューションズは、ハンドラーで、前年同期の高い需要に対して販売が減少したものの、ロボットで好調な販売が継続し、増収となりました。マイクロデバイス他は、水晶で、中国のスマートフォン向けを中心に減少したものの、半導体が好調に推移したことで、前年同期並みとなりました。
- セグメント利益は、水晶の減収影響に加え、為替のマイナス影響を受け、減益となりました。
  
- 前回予想との比較では、売上収益は、ウェアラブル機器が堅調だった一方で、水晶で未達があり、セグメント全体では予想どおりでした。セグメント利益は、水晶の売上収益未達などにより、未達となりました。



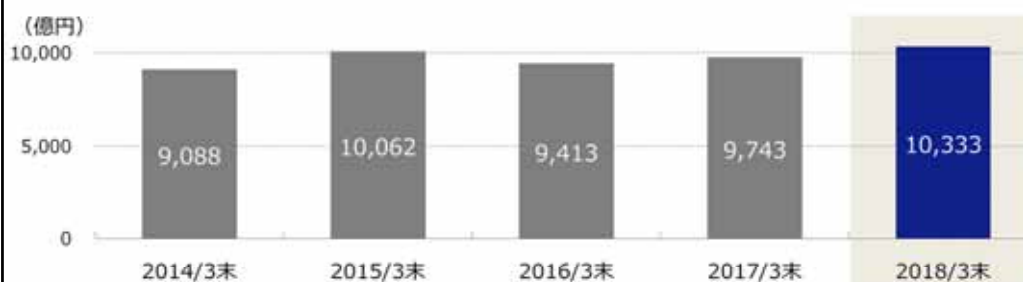
- 販売費及び一般管理費の四半期推移は、ご覧のとおりです。
- 第4四半期は、前年同期から 35億円の増加となりました。
- これは、その他の項目で、一部の知的財産に関する費用の計上科目変更にともなう増加などがあったことによります。
- 継続的に実施している販売体制の強化や戦略製品のプロモーション活動の強化などは、効率的な費用執行に努めたことで、高い水準にあった前年同期からは、小幅の変動となりました。



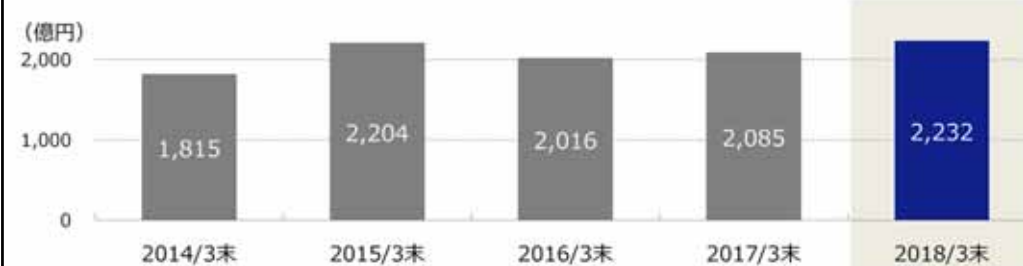


- 第4四半期 事業利益の前年同期比 増益額 45億円の要因分析は、ご覧のとおりです。
- 数量変動は、インクカートリッジや、水晶デバイスなどのマイナスがありましたが、大容量インクタンクモデル、プロジェクター、大判プリンター、半導体、ロボットなどのプラス効果が、上回りました。
- 価格変動は、半導体、水晶、POSプリンター、大判プリンターでマイナス影響がありましたが、インクジェットプリンター本体、プロジェクター、ウェアラブル機器でのミックス変動などのプラス効果が上回り、合計でプラスとなりました。
- コスト変動は、高付加価値製品の増加に伴うコスト増加や、原材料費等の高騰の影響などがありました。
- 販管費の増加は、先ほどご説明した、一部の知的財産の費用の計上科目変更などによるものです。

資産合計



棚卸資産



- 財政状態計算書の主要項目について、ご説明します。
- 資産合計は、売上債権およびその他の債権や、棚卸資産、現金および現金同等物、フィリピン新工場完成による有形固定資産の増加などにより、前期末に対して589億円増加し、1兆 333億円となりました。
- 棚卸資産は、プリンター事業で、一部地域での販売未達や、好調な北米市場での大容量インクタンクモデル拡販に向けた在庫の積み増しなどにより、前期末に対して147億円増加し、2,232億円となりました。

有利子負債・有利子負債依存度、ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者帰属持分比率



- 有利子負債は、前期末に対して199億円増加の、1,665億円となり、資産合計の有利子負債依存度は16.1%となりました。
- ネットキャッシュは、631億円となりました。
- 親会社の所有者に帰属する持分は、前期末に対して205億円増加の5,127億円となり、親会社所有者帰属持分比率は、49.6%となりました。

## 主要費用・設備投資予想

### 研究開発費



### 設備投資・減価償却費



		FY2017 実績	FY2018 予想
設備投資の内訳	プリンティングソリューションズ	463	490
	ビジュアルコミュニケーション	143	130
	ウェアラブル・産業プロダクト	110	130
	その他・全社費用	76	80

26

- 研究開発費、および設備投資の実績と予想はご覧のとおりです。
- 設備投資は、中期経営計画に沿って進めていますが、建設資機材の価格高騰や、より競争力の高い製品投入を進める中での金型投資の増加などにより、中期計画より高い水準となっています。

## フリー・キャッシュ・フロー/主な経営指標

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

### フリー・キャッシュ・フロー



### 主な経営指標

	FY2013 実績	FY2014 実績	FY2015 実績	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 予想
<b>ROS</b> 売上収益 事業利益率	8.9	9.3	7.8	6.4	<b>6.8</b>	7.6
<b>ROA</b> 資産合計 事業利益率	10.4	10.6	8.7	6.9	<b>7.4</b>	7.8
<b>ROE</b> 親会社所有者 帰属持分 当期利益率	27.7	26.3	9.5	10.1	<b>8.3</b>	10.9

27

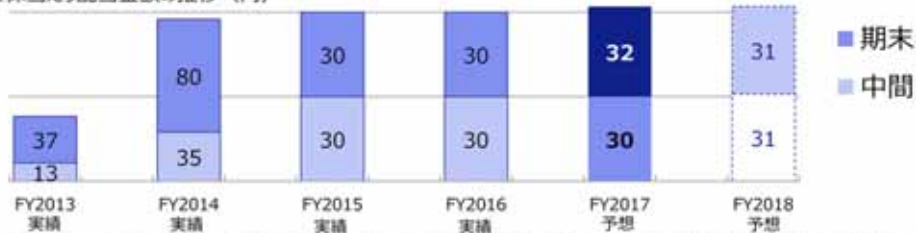
- 2018年度のキャッシュ・フローの予想は、  
営業活動によるキャッシュ・フローが、1,080億円、  
投資活動によるキャッシュ・フローが、880億円、  
その結果、フリー・キャッシュ・フローは、200億円を予想します。
- 以上の業績予想に基づく2018年度の主な経営指標は、  
ROSが 7.6%、  
ROAが 7.8%、  
ROEが 10.9% となります。

- 成長戦略に基づく投資を最優先に行ったうえで、経営環境の変化などに耐え得る強固な財務構造の構築と積極的な利益還元と並行して取り組む
- 中期的には連結配当性向\*140%程度を目標としたうえで、株価水準や資金の状況などを総合的に勘案し、必要に応じて機動的に自己株式の取得を行い、より積極的な株主還元を図る

## ■ 配当実績・予想

	2017年度予想	2018年度予想
年間配当 (中間/期末)	62円 (30円/32円)	62円 (31円/31円)

1株当たり配当金額の推移 (円) \*2



\*1 : 当社の本業による利益を示す事業利益（日本基準の営業利益とほぼ同じ概念の利益）から法定実効税率相当額を控除した利益に基づく  
 \*2 : 当社は2015年4月1日に1:2の株式分割を実施しました。グラフの高さは分割後の水準で表示しています

- 最後に、株主のみなさまへの利益還元についてご説明します。
- ご覧のとおり、株主還元の基本方針と中期的な目標に変更はありません。
- 戦略の進捗によって創出したキャッシュの用途は、将来の持続的な成長に向けた投資を最優先とし、そのうえで、財務構造の強化と同時に、積極的な株主還元も行ってまいります。
- 株主還元のうち、利益配当は、連結配当性向 40%程度を目標としています。
- 2017年度の期末配当は、前回予想のとおり 1株当たり 32円とし、年間で62円とさせていただく予定です。
- また、2018年度の配当につきましては、2017年度と同額の1株あたり年間62円の予想です。
- 以上

**EPSON**  
EXCEED YOUR VISION

---

## 補足資料

---



# 四半期 売上収益推移 | 事業セグメント別



為替レート (円)	USD	108.15	102.44	109.30	113.64	111.08	111.00	112.92	108.39	-5.25
	EUR	122.02	114.28	117.78	121.08	122.12	130.36	132.96	133.20	+12.12
<b>売上収益 (億円)</b>		2016/1Q	2016/2Q	2016/3Q	2016/4Q	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	前年同期比
プリンティングソリューションズ	1,573	1,613	1,923	1,756	1,659	1,761	2,116	1,829	+73	
ビジュアルコミュニケーション	416	460	459	460	463	528	516	480	+20	
ウェアラブル・産業プロダクツ	404	405	398	377	430	432	423	386	+9	
その他	3	3	4	4	2	2	2	2	-1	
全社費用・調整額	-6	1	-3	-7	-8	0	2	-13	-5	
<b>連結合計</b>	<b>2,390</b>	<b>2,484</b>	<b>2,782</b>	<b>2,590</b>	<b>2,548</b>	<b>2,725</b>	<b>3,061</b>	<b>2,686</b>	<b>+96</b>	



## 四半期 事業利益推移 | 事業セグメント別

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

為替レート (円)	USD	108.15	102.44	109.30	113.64	111.08	111.00	112.92	108.39	-5.25
	EUR	122.02	114.28	117.78	121.08	122.12	130.36	132.96	133.20	+12.12
事業利益 (億円)	2016/1Q	2016/2Q	2016/3Q	2016/4Q	2017/1Q	2017/2Q	2017/3Q	2017/4Q	前年同期比	
プリンティングソリューションズ	128	210	317	184	221	138	351	237	+53	
ビジュアルコミュニケーション	21	50	47	42	52	74	56	60	+17	
ウェアラブル・産業プロダクツ	16	23	25	12	23	24	19	3	-8	
その他	-2	-0	-1	-0	-1	-1	-1	-0	-0	
全社費用・調整額	-99	-90	-105	-121	-128	-122	-123	-137	-16	
<b>連結合計</b>	<b>64</b>	<b>192</b>	<b>283</b>	<b>117</b>	<b>167</b>	<b>113</b>	<b>303</b>	<b>163</b>	<b>+45</b>	



# 主要製品の販売動向



## ■ 実績および予想（前年同期比）

ASP, 売上収益は日本円換算後

製品		FY2016 通期(実績)	FY2017 1Q(実績)	FY2017 2Q(実績)	FY2017 3Q(実績)	FY2017 4Q(実績)	FY2017 通期(実績)	FY2018 通期(予想)
為替 レート	USD	¥108.38	¥111.08	¥111.00	¥112.92	¥108.39	¥110.85	¥100.00
	EUR	¥118.79	¥122.12	¥130.36	¥132.96	¥133.20	¥129.66	¥125.00
IJP 本体	数量	+5%	+7%	+4%	+13%	+7%	+8%	+5%
	数量構成比 大容量*/ オフィス	約40%/ 約20%	-	-	-	-	50%弱/ 15%超	約55%/ 約15%
	ASP	-1桁%台後半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台前半	+10%台前半	+10%台前半	前期並み
	売上収益	-1桁%台前半	+10%台後半	+20%程度	+20%台半ば	+10%台後半	+20%台前半	+1桁%台半ば
IJP インク	数量	-4%	-2%	-3%	-7%	-3%	-4%	-
	ASP	-1桁%台前半	+1桁%台半ば	+1桁%台後半	+1桁%台後半	+1桁%台前半	+1桁%台半ば	-
	売上収益	-1桁%台半ば	+1桁%台前半	+1桁%台半ば	前期並み	-1桁%台前半	+1桁%台前半	-10%台前半
SIDM 本体	数量	+4%	-25%	-15%	+19%	+3%	-7%	-6%
	ASP	-10%台後半	+1桁%台前半	+1桁%台後半	前期並み	-1桁%台半ば	+1桁%台前半	-10%程度
	売上収益	-10%台半ば	-20%台前半	-1桁%台後半	+10%台後半	-1桁%台前半	-1桁%台半ば	-10%台半ば
プロジェ クター	数量	+6%	-2%	+1%	+4%	+3%	+1%	+7%
	ASP	-1桁%台後半	+10%台半ば	+10%台半ば	+1桁%台後半	+1桁%台前半	+1桁%台後半	-10%台前半
	売上収益	-1桁%台前半	+10%台前半	+10%台半ば	+10%台前半	+1桁%台半ば	+10%台前半	-1桁%台半ば

本資料は、エプソン内部の管理値に基づく指標です。 \*大容量インクプリンター：大容量インクタンク、大容量インクパック、高速ラインインクジェット複合機

# 主な業績指標

EPSON  
EXCEED YOUR VISION

(億円)						(億円)				
	項目	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 予想	FY2018 第1期中計目標	項目	FY2016 実績	FY2017 実績	FY2018 予想	Epson 25 第1期累計
為替レート	USD	¥108.38	¥110.85	¥100.00	¥115.00	USD	¥108.38	¥110.85	¥100.00	¥115.00
	EUR	¥118.79	¥129.66	¥125.00	¥125.00	EUR	¥118.79	¥129.66	¥125.00	¥125.00
プリンティングソリューションズ	売上収益	6,866	7,366	7,000	8,050	営業CF	968	842	1,080	3,300程度
	セグメント利益	841	948	1,000	-	FCF	211	96	200	1,200程度
ビジュアルコミュニケーション	売上収益	1,796	1,988	1,880	2,000	設備投資	753	794	830	2,100程度
	セグメント利益	161	244	220	-	研究開発費	527	503	550	積極的に投下
ウェアラブル・産業プロダクト	売上収益	1,585	1,673	1,610	1,950					
	セグメント利益	78	71	90	-					
その他	売上収益	15	9	10	0					
	セグメント利益	△4	△5	△10	-					
全社・調整額	売上収益	△15	△17	0	0					
	セグメント利益	△417	△511	△500	-					
連結合計	売上収益	10,248	11,021	10,500	12,000					
	事業利益	658	747	800	960					
	ROS	6.4%	6.8%	7.6%	8%					
	ROE	10.1%	8.3%	10.9%	継続的に10%以上					